

2018  
秀作

## 第51回「おかねの作文」コンクール

# 夢への四百五十万円

神奈川県・カリタス女子中学校 2年 佐々 ひなた

「また貯金して。一体何に使うの？」

「いいでしょ別に。貯めて悪いことなんてないんだから。」

これは、毎年正月に私と母で交わされる会話だ。特に物欲の無い私は、お年玉をもらう度に全額貯金をし続けている。また、お小遣いも使わなかった分を貯めている。その為、今私の通帳には50万円入っている。だが、特に貯めている理由もなく、そのお金で何かやりたいこともない。だから、母にあのように言われても私は答えられずいつもごまかしていたし、その貯金について考えるのは1年に1程度だった。

そんな私が貯金について考えるようになったのは、テレビである番組を見たのがきっかけだ。その番組にはある女性が出演していた。その女性には子供が4人いて、彼女は女手一つでその子供たちを育てている。働き手が少ないので収入もあまりなく、子供の教育費が多くかかるこの家庭には貯金は少なく、子供を育て上げるのに精一杯だと私は思っていた。だが、番組が進むにつれ、それは思い違いであることが分かった。

彼女には、「マイホームを建てる」という目標があった。その為に、毎日の生活で節約をしたり夜中に内職をしたりして、少しずつ貯金をした。そして6年後、遂に彼女は夢のマイホームを手に入れたのだ。その時の彼女の顔は、喜びと達成感にあふれていた。

私はこの番組を見て、非常に衝撃をうけた。一番心に残ったのは、彼女がある友人に言われた言葉だ。その友人は、「子供が4人もいて、しかもシングルマザーなんだから、マイホームなんて無理よ。」と彼女を鼻で笑ったそうだ。多分、ほとんどの人がそう思うだろう。また、もし彼女にマイホームを建てるという目標が無ければ、彼女は大金を貯めることは出来なかったと思う。この番組で私は、お金は夢を叶える為の一つの手段で、夢を追いかけていけば自然に努力

することが出来、貯金もしやすいのだと実感した。

私には、新聞記者になるという夢がある。昔からこの夢をいだいているが、そこまでのプロセスを真険に考えたことは無かった。だが、マイホームの夢を持った彼女が実行に移したように、自分も行動をおこそうと思った私は、新聞記者になるまでにかかる費用を調べてみた。

私は中高一貫校に通っているが、大学卒業までにかかるお金を調べてみたところ、最低でも費用は300万円かかることが分かった。更に大学院に行ったら、150万円かかる。こんな金額が必要だとは、思ってもいなかった。

もちろん、このお金を両親に出してもらうことも出来る。私も今までは、将来そうするのだろうとぼんやり思っていた。だが、努力して貯金したお金でマイホームを買ったあの女性のうれしそうなお顔が強く印象に残っていて、自分の夢の為のお金なのだから、自分で貯めてそのお金で大学や大学院に進みたいと強く思うようになった。今通帳に入っている50万円の他に、あと400万円貯める必要がある。

きっと、両親や多くの人に「それは不可能だ。」と言われるだろう。だが、彼女は私よりも貯金が難しい環境で家一軒建てられる程の金額を貯めたのだ。そんな彼女に出来たのだから、私にだって出来るはずだ。まだ中学生なのでお金をかせぐことは出来ないけれど、お菓子を買わなかったり、余計な文房具をがまんしたりするなど、出来る範囲で節約をしようと思う。

あの番組を見ることで、今まであまり関心の無かったお金について色々考えるようになった。教育にかかる費用のことを知り、両親が今まで私にどれ程多くのお金をかけてきたかを思い知らされた。これからは毎月もらうお小遣いに感謝の気持ちを持って、使っていきたいと思った。

来年の正月、また母は私にあのように質問してくるだろう。あの番組を見なければ、私はまたうやむやにしていたはずだ。だが今、貯金の使い道や教育費のことなど、お金についての考えをしっかりと持てるようになった私は、母にこう言いたいと思う。

「お母さん、私は将来の夢の為にこの貯金を使うから、これからも貯めることにしたんだ。」  
と。